

(1) 講座目的

キャリアデザインに関心を持ち始めた2~3年生を対象に、社会人の体験談を聞き、人生を長期的に見据え自立した働き方や生き方の方向性をつかむ機会をワークショップ形式で提供する。

本格的な職業選択や就活の前に、自立した大人として生きるイメージをつかむことをめざす。3名のキャリアモデルの生き方から、人生を切り拓く力としての社会や人と関わる力の大切さに気づき、自身の将来展望を具体化する。

(2) プログラムのポイント (想定される効果)

- ・事前学習、社会人ゲストのキャリアトーク、学生同士のグループワーク、講師によるレクチャーを組み合わせた双方向型形式で実施する。
- ・通常授業から離れたカジュアルな雰囲気の中で、多様な考えに触れ、自分の気持ちや考えを整理し、キャリアを具体的に考える機会を提供しライフプランを作るための土台づくりをめざす。その後の大学生活にける主体的な学びや活動へつなげることが期待される。

(3) プログラム キャリアモデルの生き方から将来を考える (150分)

テーマ	内容
第1部：生き方の変化や社会構造を知る (50分)	アイスブレイクの後、事前課題を活用し自己紹介と自分の将来イメージをグループでシェア。その後、ミニ講義で人々の生き方の変化等をデータで学ぶ。 ミニ講義では、日本女性学習財団「なるほどジェンダー」パネルを教材として使用。『We learn』を副読本教材として使用。
第2部：キャリアモデルの体験談を聴く (100分)	働いている方3名のキャリアヒストリー (障壁を乗り越えた経験) について聴いた後、3グループに分かれキャリアモデルを囲んで質疑・意見交換。グラフィックレコードを見ながら講座をふり返り、各自の発見や印象に残ったことをグループでシェアして終了

※事前学習：「これからの私を話してみよう」ワークシート (自分の強み・夢中になって来たこと/10年後の私/将来への不安・もやもや/将来への期待・楽しみ/私を支える人・もの・言葉) を記入して持参する。

※グループワークファシリテーター：(公財) 日本女性学習財団

(4) オンラインでの展開例

1. プログラム

ライフプランニング講座 A—社会人の話を聴いて私の未来を切り拓く (110分)

事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインとジェンダー (M字型就労、男女の賃金格差など) について解説したレクチャー動画 (日本女性学習財団「発見! ジェンダー」パネルのデータを使用、YouTube で限定公開) 視聴 ・社会人ゲストのプロフィールと参加者へのメッセージを掲載した資料を読む ・ワークシート「これからの私を話してみよう」を記入し、将来に対する自身の現状 (興味や不安、希望等) を整理する
講座	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 (10分) 講座目的、オンラインでの参加方法の説明、ゲスト紹介

	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアモデルの体験談を聞く（50分）20代社会人ゲストから学生時代から現在までのキャリアヒストリー、仕事の内容とやりがい、人生を切り拓いた経験の話を聴く。「キャリアトークヒアリングシート」を記入 ・グループトーク（30分）ブレイクアウトルームに分かれ小グループで意見交換する ・全体シェア・まとめ（15分）グループトークの内容や感想を2名ぐらいに発表してもらおう。講座をふり返り人生を切り拓く力についてコメントする ・閉会（5分）事後アンケート等について説明
事後ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふり返りシート」に気づき等を記入 ・日本女性学習財団『Welearn』2020年6月号のPDF版を事後学習資料として配付

※「これからの私を話してみよう」シート、「キャリアトークヒアリングシート」「ふり返りシート」「事後アンケート」は無償で活用またはひな形となるシートがあります。

※グループトークは以下の流れで実施します。

- ファシリテーターの挨拶（氏名・大学等を短く）→社会人ゲスト挨拶（氏名・大学・所属等を短く）→学生が順番に①自己紹介（氏名・大学等、受講動機、今日の講座に期待することなど）②キャリアトークを聴いての感想・意見・質問など →社会人ゲストから自己紹介とキャリアトーク・学生の発言を受けてやや詳しく話していただく（5分程度、PPT画面共有）→グループごとに話を深める・広げる→最後に1人一言ずつ感想等を言って終了
- ・実施前に、まとめたり結論を出したりする必要はないこと、キャリアトークをきっかけにしごとやライフデザインについて思いを自由に話す機会にするという目的を共有する。

2. オンライン実施時の留意点

- ・短時間で濃いディスカッションができるよう、対面時よりもグループメンバー数を少なく（最大でも5人）し、各グループに社会人ゲスト1名、進行役のファシリテーター1名を用意します。オンラインの場合、居住地や移動時間の制約がない分、社会人の協力が得やすくなります。また、他大学と合同で実施することも可能です。本事業では、聖心女子大学、静岡大学、早稲田大学の3大学合同で実施し、各大学の卒業生を中心に12名の社会人をゲストに招きましたが、事後アンケートでは社会人や他大学生と直に話せる機会は貴重で大変有意義だったという感想が多く寄せられました。

- ・グラフィックレコードやイラスト教材などを活用しましょう。本事業では、キャリアモデルの体験談や話し合いをリアルタイムで記録するグラフィックレコードを作成し、画面共有しながら全体シェアやまとめをしましたが、従来の文字中心の教材に比べて楽しい、記憶に残りやすいと好評でした。日本女性学習財団作成のパネル「発見！ジェンダー」(<https://www.jawe2011.jp/program/panel.html#hakken>)も教材として好評だったのでおすすめします。

(5) 社会人ゲスト、ファシリテーターの役割

①キャリアモデル体験談のゲストへの依頼内容

- ・ライフラインチャートを示しながら大学から現在までのキャリアヒストリーを以下の順に話していただく
 - a. 大学時代に関心のあったこと、やっていたこと
 - b. 現在の仕事について理由、経緯
 - c. 仕事の内容、おもしろさ・大変さ
 - d. その時々、自分のやりたい方向にどうやって状況をもっていったか
- ・社会人ゲストには、「切り拓く力」＝なりたい自分になれるように状況をきりひらいていく力、を学生に提示するという目的を共有する。具体的には、多くの学生が「失敗したくない。そのためにはどうしたらいいか知りたい」

と言うが、失敗のない人生はなく、失敗が実はチャンスだったということもあるので、自分のやりたい方向に自分の状況をもっていかを考えると重要だという問題意識を共有し、何らかの障害に直面しても自分の持っている資源をもちいて自分の行きたい方向にもっていった経験（人生最大のピンチ、つらかった時期、今考えると人生の転機など）の具体的なエピソードを話していただくよう依頼する。

- ・あわせて「仕事を選んだ理由、仕事から得ていること、努力していること、大変だったこと、どうやってそれを乗り越えたか」「大学で学んだことがどのように生きているか」（仕事上であったり、自分の人生においてであったり）なども話していただくようにすると良い。

②小グループでの話しあいに参加する社会人ゲストへの依頼内容

- ・学生からの質問や感想に対する率直な意見や自身の経験を話して欲しいことを伝える。
- ・短時間でキャリアを理解できるように、①簡単な経歴 ②参加者へのメッセージ ③自己紹介用 PPT1 枚を作成し、画面共有しながら話をしてもらってもよい。

③ファシリテーターへの依頼内容

- ・グループトークの進行役、話しやすいきっかけ作りや声かけを依頼する。特にオンラインでは話しはじめが難しいので、「こんにちは！」「皆さんカメラオンをお願いします」「自己紹介は、私からします」「〇〇さんはどうですか？」など、話をふったり、あいづちを打ったりすることを心がけてもらう。
- ・「学生の質問に社会人が答える」だけではなく、学生同士のやりとり（他の学生の発言への感想、自分の場合は・・・）などもできると良い。学生の気持ちは学生であるファシリテーターがよくわかるので、自身に置き換えて自由にやってみてもらおうこと。参加者全員が必ず一回以上発言し、「今日は話せた」と思っただけで終了できることを目指してもらうことを説明する。

(6) その他一動画を使用した展開例

キャリア体験談の代わりに下記動画を視聴する

「社会人の話を聴いて私の未来を切り拓く」20代社会人3名のキャリア体験談・まとめ動画（4本、50分程度）

(7) 学生の感想や実施結果については報告書をご覧ください。